

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人海外日系人協会

1 事業の趣旨・目的

当協会が行う各種事業は、その特性から、多くの在日日系人と関係があるが、当該日系人の中には日本語能力が高い者がいる。また、平成16年度より開設した、地域の日系就労者を対象とする「みなとみらい日本語教室」においては、受講期間中に日本語能力を日本語指導者としての育成対象レベルまで高めた卒業生が数名いる。

日本語教室受講生の母語を理解し、日本語能力も高い、これらの日系人を日本語指導者として養成する。

初級レベルの文法事項を正しく理解し、その指導方法を学ぶために集中的な講座を実施するほか、「I 日系人等を活用した日本語教室の設置運営」事業を活用し、同教室において実際に日本語指導を行いながら教授者から適切なアドバイスを受け、常にレベルアップを図ることとする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月26日	JICA 横浜 内セミナー ム	重松美知子 熊井美穂子 武田知子 知念輝美 中元司郎 中井扶美子 土方陽美	・今年度実施予定の事業内容について検討し、共通の認識をもつ。 ・8月講座の内容を決定する。	次のことについて確認・検討した。 ・実施内容 ・目標 ・対象者の資格要件 ・講座内容 ・指導担当者 ・開催時間数

8月2日	JICA 横浜 内セミナー ム	重松美知子 熊井美穂子 知念輝美 中元司郎 中井扶美子 土方陽美	・第1回講座の実施を踏まえ、計画通りの内容でよいかどうかを検討する。	・日本語の構造、初級文型、文法用語などの内容について、より丁寧に指導することとした。 ・日系人講師がより正しい日本語知識を持つことにより、教室で自信を持って指導にあたることができる。日系人講師が持つ、日本語文法の「もやもや」を解消する内容とする。
8月30日	JICA 横浜 内セミナー ム	重松美知子 熊井美穂子 武田知子 知念輝美 中元司郎 中井扶美子 土方陽美	・8月講座を終えて、実施内容の振り返りを行う。 ・9～11月の日本語教室における日系人講師の活用の仕方を考える。	・8月2日の会議によって内容を見直した結果、うまくいった。 ・9～11月は、見学主体から授業補助、授業実施というように段階的なステップを踏ませることとした。
12月27日	JICA 横浜 内セミナー ム	重松美知子 熊井美穂子 武田知子 知念輝美 中元司郎 中井扶美子 土方陽美	・12月講座を終えて、実施内容の振り返りを行う。 ・1～3月の日本語教室における日系人講師の活用の仕方とともに、日系人講師のレベルアップを考える。	・12月講座では、受講生たちの文法知識を整理すること、また、前に出て実際に模擬授業を体験することを計画したが、結果としてよかった。 ・この学習を活かして、1月からの教室での指導に期待したい。

【写真】



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名：「みなとみらい日本語教室」教師養成講座

(2) 研修の目標

- ・初級日本語指導に必要な知識と技術を習得する。
- ・実践力を身につけるとともに、教師としての自信と自覚をもてるようになる。

(3) 受講者の総数 17 人

(4) 開催時間数（回数） 39 時間 （ 27 回）

内訳：集中講座 20 時間（全 8 回）

事前・事後指導 19 時間（全 19 回）

(5) 参加対象者の要件

次のいずれかの条件を満たす者

- ・当協会が実施する「みなとみらい日本語教室」の卒業生
- ・日本語能力試験 3 級以上の日本語能力を有する者

(6) 受講者の募集方法

- ・当協会ホームページにより募集広報を行った。
- ・インターナショナルプレス紙（スペイン語版）により募集広告を掲載した。
- ・募集リーフレットを関係各所に配布した。

別添 1：募集リーフレット

別添 2：新聞広告

(7) 研修会場

JICA 横浜内セミナールーム（神奈川県横浜市中区新港 2-3-1）

(8) 使用した教材・リソース

にほんごみらい 2、3

ひらがなれんしゅうノート、カタカナれんしゅうノート

(9) 講座内容

○集中講座

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
8 月 2 日	オリエンテーション ・ 講座概要、日程、注意事項 などの説明 ・ 講師、受講生自己紹介 みなとみらい日本語教室に について ・ 基本的な授業の流れ ・ 使用テキストの説明	横浜市日本語教室講師 重松美知子	13 名
8 月 9 日	日本語の基本的な仕組み ・ 2 つの枠組み（丁寧体、普 通体） ・ 3 つの柱（名詞文、形容詞 文、動詞文） ・ 文末の基本（肯定・否定、 時制） ・ 疑問文の基本	横浜市日本語教室講師 重松美知子	12 名
8 月 23 日	動詞のグループ分け ・ I・II・III グループの違い 動詞の形 ・ 「て形」のきまり	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	10 名
8 月 30 日	授業デモンストレーション 授業の流れ ・ 導入→基本練習→応用練習 ・ 練習のタイプ ミニ実習	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	10 名

12月6日	文型の分析 受身の指導について ・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲグループの動詞 による受身の作り方の違い 受身の種類 受身の誤用、訂正の仕方	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	12名
12月13日	条件「～と」「～たら」 例文を見て分析する。 例文を考える。 誤用の訂正方法を考える。	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	8名
12月20日	授業の進め方 ・導入→基本練習→応用練習 ・練習の種類 講師によるモデル授業 受講生による模擬授業	横浜市日本語教室講師 重松美知子	8名
12月27日	受身の復習 「受身」の授業をしてみる。	横浜市日本語教室講師 重松美知子	7名

○事前・事後指導

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月27日	教科書本文の音読に関する指導 受講生からの質問に対する対応方法	横浜市日本語教室講師 重松美知子	4名
10月11日	文法説明時における母語（ポルトガル語）の使い方	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	2名
10月18日	受講生の興味を持たせる見せ方、授業の進め方	横浜市日本語教室講師 重松美知子	2名
10月25日	モデル会話のよりよい実施方法 講義者、講義補助者との割振り、調整	恵泉女学園大学講師 武田知子	2名
11月1日	絵カードの効果的な使い方	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	2名

11月8日	母語による効果的な語彙説明の方法	恵泉女学園大学講師 武田知子	3名
11月15日	適切な例文の作り方	横浜市日本語教室講師 重松美知子	3名
11月22日	学習者に対する質問の投げかけ方	横浜市日本語教室講師 重松美知子	1名
1月10日	フラッシュカードの効果的な使い方	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	2名
1月17日	レアリアの使い方	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	1名
1月24日	質問を受けたときの対応の仕方	横浜市日本語教室講師 重松美知子	1名
1月31日	講師自身の文法力アップ	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	2名
2月7日	新出語彙の提示の仕方	横浜市日本語教室講師 重松美知子	2名
2月14日	撥音矯正	横浜市日本語教室講師 重松美知子	2名
2月21日	フラッシュカードの工夫	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	1名
2月28日	テンポやメリハリを考慮した授業の進め方	横浜市日本語教室講師 重松美知子	2名
3月7日	モデル会話のイントネーション	桜美林大学講師 和美智子	2名
3月14日	新出語彙の説明方法	横浜市日本語教室講師 重松美知子	2名
3月21日	動詞の活用の導入のヒント	ラボ日本語教育研修所講師 熊井美穂子	1名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

受講生に対してアンケートを行った結果、次のようなコメントが出された。

- ・文法事項をきちんと整理し、理解することが必要だとわかった。また、自分自身の文法に関する知識が増えた。
- ・教えるときに何を重視すればよいかわかった。
- ・授業の流れが理解できた。
- ・文法用語を覚えた。
- ・日本語教師とは何か、何をどう教えることなのかが理解できた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

昨年度の経験を踏まえ、ある程度、受講生のレベルを想定した上で、事前に講座内容を組み立てたが、講座初日に実際に受講生の様子を見て、軌道修正が必要だとわかった。この修正の可能性を考慮し、当初より企画会議を第1回講座の直後に予定していたため、関係者全員で再検討することによって、迅速な対応が図れたと思う。

途中参加する者、また途中で来なくなる者などの入れ替わりはあったが、全体的に受講生は熱心であった。

日本語指導者としてのスキルをみがくことは大切だが、まず、自分自身の日本語文法に対する基礎的知識を整理し、正確なものにしなくては、授業において適切な指導はできない。受講生たちはこの点をよく理解しており、文法の学習に熱心に取り組んでいた。

昨年度は、日系人講師に多くの負担を与えすぎたとの反省があり、今年度は、徐々にステップアップする方法をとった。クラスで人前に立つ自信がない者もいたが、何回か体験するうちに、慣れてきたようである。

指導者としての資質の問題もあり、個人によるレベル差はあるが、人に教えることの楽しさ、充実感を感じ、前向きに取り組んでくれたと思う。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

日系人を対象とした「みなとみらい日本語教室」は、引き続き次年度以降も実施する予定である。

日本語教育関連、日系人就労関連の JICA 委託事業、厚生労働省委託事業等を通じて、太田、浜松、和歌山など地方都市と連携し、講師派遣や、相互の見学を通じた交流などを推進していく。

これまでの経験・ノウハウを活かし、国内在住の日系人に対する支援について、新たな取り組みを模索しつつ、検討を進めていく。

(11) 事業の成果

(ア) 他事業との連携

- ・「みなとみらい日本語教室」において、日系人日本語指導者を活用した。
- ・相模原国際交流ラウンジ、慶應義塾大学、横浜国際教育学院などの日本語教育関係者を見学者として受け入れ、交流を促進した。

(イ) 研修後の人材活用

- ・「みなとみらい日本語教室」において、日系人日本語指導者の活用を進める。
- ・地域のボランティア教室などに、本養成講座を終えた日系人講師を紹介する。

(12) 今後の課題

- ・限られた期間の研修では、1人前といえる講師を育てることは困難であろう。
クラス授業を行うことを目指す者、プライベートレッスンで指導することを目指す者などニーズに応じた対応をしたい。
- ・経費が精算払いとなっているため、事業終了まで立替払をしなければならないのが問題である。
- ・業務完了報告書と実施内容報告書では、内容はかなり重複しているが、表の作り方（項目の順番や表記の方法）などが異なっているので、報告書作成作業が煩雑と感じた。

以上